

“創知協働の森づくり”と“循環利用の森づくり”を進めよう!



■表紙写真 題名：木材出荷 撮影場所：志太郡岡部町 撮影者：栗田 才治 氏（藤枝市）



INDEX

© 静岡県

- | | |
|---|--|
| 2 首長は語る
水と森の番人が創る癒しの里 | 6 現地レポート①
環境、社会、経済の調和を図る森林管理 |
| 3 森林・林業研究センターだより(No.54)
広葉樹のDNA分析 | 7 現地レポート②
あれも これも 芝川町! |
| 4 県庁だより①
公共土木工事における木材の利活用推進に向けて | 8 林政ニュース
治山・林道技術研修会の開催 |
| 5 県庁だより②
カシノナガキクイムシ被害地視察(愛知県)に行ってきました | 8 事務局だより |

首はる 長語

水と森の番人が創る癒しの里

川根本町長 杉山 嘉英

山村の町同士で合併して

今回の平成市町村合併にあたっては、全国一律に人口や財政の大きさだけで論じるのではなく、その地方、地域にあった適正な規模があるはずと考えた。環境によっても人間はもの見方が違うから、気候風土、歴史文化、地場産業を共有し価値観が同じ方向である「川根地域」で合併するのが適当と判断し、協議し、結果として二町合併により川根本町が誕生した。様々な地域課題に対して、地域コミュニティの力と連携しながらきめ細やかな対応ができる規模と考えている。



町として、まずやらなければならないことは二つある。基本的な暮らしが維持できるように行政が仕組みを整備すること。町内全域での公共交通機関の整備や高齢者等の病院・買い物への足の確保、地域にあった健診や健康づくり体制の充実などが挙げられる。二つ目は、町民自らが今までの生活体験のもと、地域資源をさらに活かす活動を促進することである。自分達の暮らしを支えてきたお茶、林業、温泉などをグリーンツーリズムの手法や自然環境など地域特性をより強調した産業に育成していきたい。



▲茶畑の中を走るSL

新しい視点で森を考える

森をずっと林業という視点で見えてきたが、もう少し多面的にみる必要があるであったと思う。社会が求めている役割や機能などを受け止め、地元で森と係わっている者が、まずいろいろな形で付き合い方を提案していくことが大切である。

昭和35年頃を境に森との係わりが経済中心に変化したと思うが、これからは、また同じ年数をかけて人と森が親しく共生できる関係にしていかなければならない。

それには、山・川・海や里が一体となった流域連携という大きな力が必要である。豊かな自然に恵まれている半面、環境にも影響を与えやすい上流の町であるという自覚をもって行動していくことが重要である。



▲豊かな森からの清流

森林認証取得を活かして

町として森林認証（FSC）の取得は、森林所有者としての責任を果たしていくため、社会性や持続性を含め、森との付き合い方を再確認し、それを共有しようとしたものである。

また、町外に対しては、国際的にも認められた手法により、環境にも配慮して管理していることを提示し、そのことが木材の利用も含めて、様々な形で森づくりの支援に繋がるのではと考えた。

ただし、認証取得を経済効果のみで捉えることは、従来の考え方と同じであり、経済・社会・環境のバランスの取れた良好な森との関係を広めていくことが今必要なことだと思う。

かつて、杉・檜が一世を風靡したような全国共通の振興策は出てこないと思う。森には多くの機能があり、自分達の地域はどのような機能を活かして振興を図っていくのか、山村の知恵の出どころである。



▲接阻峡：夢の吊り橋

人が集う山村とするため

これから、次代の「水と森を守る番人」を育てていくためには、経済以外にも自分の存在価値や喜びを見出すことができるよう、きちんと「地元」を体験しながら成長してほしい。感動やふれあいといった体験を積み重ねれば、子供たちは、きっと地元に戻ってくると思う。また、大人たちも個人、集落、業界といったそれぞれの段階で、経済価値を乗り越える自信と誇りを持ち、生きがいのある毎日を見つけることが肝心である。

川根本町をしっかりと持続させ、国民の財産である「水と森」を守り、人間本来の生き方の原点である「山村の暮らし」を伝える使命を果たしていきたい。

広葉樹のDNA分析

広葉樹遺伝子プロジェクトスタッフ 片井 秀幸

近頃、食の安全などで「DNA分析」ということばを耳にする機会が増えています。林業の分野でもDNA分析が行われはじめました。今回は、森林・林業研究センターで行っているプロジェクト研究における広葉樹でのDNA分析について解説させていただきます。

DNA分析を利用した調査

近年、DNAなどの遺伝情報を調べるための分析機器が飛躍的に進歩し、多くの分野で遺伝子レベルでの調査が行われてきています(表1)。

表1 DNA分析の活用例

1. 種の同定	
①組織の一部(加工製品など)から種を同定	
②雑種の判定	
③在来種・移入種の判定	など
2. 個体識別	
①親子鑑定	
②動物の行動圏の調査	
③植物のクローン判定	など
3. 集団の遺伝的構成の評価	
①遺伝的多様性の評価	
②集団分化の評価	
③遺伝的多様性をもとにした絶滅リスクの推定	など

例えば、農業分野では、品種や遺伝子組換え体の混入並びに加工食品の表示偽装の調査などが行われています。森林・林業の分野では、他の分野よりも技術的に少し遅れていますが、採種圃管理、動植物親子鑑定、動物行動圏調査及び生物絶滅危険度の推定、さらには苗木産地の判定なども試みられています。

DNA分析用機器と分析法

DNAは、4つの塩基(G:グアニン、C:シトシン、T:チミン、A:アデニン)の組み合わせでできている。塩基の並びは、個体毎に少しずつ異なっており、それぞれの個性が反映され、並び方によっては生体に不都合が生じ遺伝病の原因等にもなります。

このDNAの塩基の並びを読み取る専用の分析用機器がDNAシーケンサーです(図1)。この機器を利用すると、個体別に塩基の配列を示すことができます(図2)。個体①から順に個体⑩まで並べますと、個体⑧と個体⑨には矢印で示した箇所に他の個体と塩基の並び方に違いがあります。この個体間の違いを利用して、農作物の品種、系統などを見分けています。



▲図1 DNAシーケンサー

個体①	AGAGACTCAATGGAAGCTGTTT
個体②	AGAGACTCAATGGAAGCTGTTT
個体③	AGAGACTCAATGGAAGCTGTTT
個体④	AGAGACTCAATGGAAGCTGTTT
個体⑤	AGAGACTCAATGGAAGCTGTTT
個体⑥	AGAGACTCAATGGAAGCTGTTT
個体⑦	AGAGACTCAATGGAAGCTGTTT
個体⑧	AGAGACTCAATGGAAGATGTTT
個体⑨	AGAGACTCGATGGAAGCTGTTT
個体⑩	AGAGACTCAATGGAAGCTGTTT

▲図2 DNAの塩基配列の比較

(注) 各塩基配列は異なる個体のデータです。図中の矢印の箇所に塩基配列の違いが見られます。

これまでのセンターでの研究成果

ブナなど被子植物の葉緑体の遺伝情報は母性遺伝(母親の遺伝情報だけが子供に伝わる)します。ブナの種子は相対的に重く、主に重力により散布されるため、鳥類やネズミなどのげっ歯類により運ばれない限り、散布距離は母樹からせいぜい20~30mとされています。そのため、葉緑体の遺伝情報は遠くに広まりにくいこととなります。このため、葉緑体のハプロタイプ(遺伝子型)と地理的な分布の間に関係があることが知られています。当センターでは、このような樹木の遺伝子の特性を利用して、上述したDNA分析法により、主要な広葉樹や絶滅危惧種の遺伝子について、地域毎に差があるか調査を行っています。

その結果、県内各地のブナ集団には、3種類のハプロタイプが存在することが明らかになりました。そのうち本県の主要なハプロタイプは2種類で、おおよそ大井川付近を境にして、西側と東側で地域差が確認されました。ケヤキについても調査したところ、県内には2種類のハプロタイプがあり、安倍川から大井川の間を境にして、西側と東側では異なることがわかりました。

おわりに

DNA分析技術を利用することにより、外見上ではわからない多くの遺伝情報を得られることが期待されます。しかし、これまで調べられていない樹種も多く、塩基配列以外の新たな分析方法の検討も必要となります。そのためには様々な分析条件の検討が必要となり、いかに分析の効率化を図るかといった課題も残されています。これらのことを克服しながら、今後も広葉樹のDNA分析を進め、地域に適した広葉樹稚苗の確保、稚苗配布区域の確定、絶滅危惧種の維持・保全等に寄与していきたいと考えています。

県庁だより①

公共土木工事における木材の利活用推進に向けて —木材・木製品利用事例集を作成しました—

県建設部森林局 森林保全室 治山スタッフ

県で積極的に取り組んでいる木材の利活用について県森林保全室治山スタッフより紹介させていただきます。

木材利用の長所と短所

みなさんは木材を使おうとする時どんなイメージを持ちますか？木材利用には以下の長所・短所があります。

長所

- ☆軽量で取扱いが容易
- ☆加工が簡単で工作設置が容易
- ☆比重が小さい割に強度が大きい
- ☆音や振動、衝撃の吸収性が高い
- ☆外観が美しく味わい深く周囲の景観、環境になじみやすい
- ☆生産・加工に伴う熱消費量が少なく、環境負荷が少ない
- ☆そのまま残地しても腐朽し自然に還元することから、環境への影響が小さい

短所

- ★腐りやすい（水中、土中等で空気を遮断した状態では、長期間腐朽しない）
- ★材質にばらつきがある（厳密な安定計算、部材応力計算が困難）
- ★乾燥による収縮やひび割れにより寸法が変化する。
- ★燃えやすい

「しずおか木づかい推進プラン」

静岡県内の森林資源の持続的かつ有効な活用を図ることにより、安全で潤いある健全な県土の形成や、ゆとりと魅力ある環境の創造、地球環境保全への貢献など持続可能な社会を実現していくため、公共部門において県が率先して地域材（県産材）の利用推進を図るとともに、県民、事

業者、市町等の主体的な取組を促進することを目的として、平成18年8月に「しずおか木使い推進プラン」を策定しました。当プランでは積極的な木材利用推進を図るため、平成18年～22年度の5カ年間で公共土木工事等における間伐材等の地域材（県産材）を35,000㎥使用する目標を定めています。

平成19年度の建設部における公共土木工事での木材利用量は8,726㎥であり、この内、治山及び林道事業等における木材利用量は8,179㎥でした。これは、道路、河川、港湾、砂防、農地などを含めた建設部内での公共土木工事の木材利用実績の内、実に9割以上を占めています。このため、今後の木材利用推進には森林局だけではなく、建設部全体で木材利用拡大に取り組む必要があると考えています。

「土木職員技術説明会」「木材利用庁内連絡会議」における木材活用PR

このことから、今年度5月8日から29日の間に、県内9箇所で開催された土木職員技術説明会において農林事務所森林担当職員が、森林土木工事での木材施工事例などを紹介しながら、公共土木工事での県産材の積極的活用の呼びかけを行ったほか、6月3日に開催された「木材利用庁

工種名 丸太残存型枠	
農林事務所名	東郡農林事務所
事業名	復旧治山
施工箇所名	沼津市内浦三津
工種の説明（施工効果等）	
コンクリート製治山ダム上流側の型枠に残存型枠として丸太を使用している。生コン打設後の脱型が不要であるため、施工の効率化と安全性の向上が図れる。	
写 真	
着手前	完成
施工状況(型枠組立中)	施工状況(型枠組立完了)
施工単価(直接工事費) 9,122円/㎡	

工種名 盛土法尻丸太柵工(背面根株利用)	
農林事務所名	富士農林事務所
事業名	森林居住環境整備事業
施工箇所名	愛鷹線
工種の説明（施工効果等）	
丸太柵工背面に工事で発生した支障木の根株を埋設し、土留利用することで盛土法尻の侵食防止を図った。また、工事発生副産物の「自ら利用」を推進し、処理施設への搬出及び処理経費を削減した。	
写 真	
材料	
施工後の状況	施工状況
施工単価(直接工事費) 盛土法尻丸太柵工 4,642円/㎡	

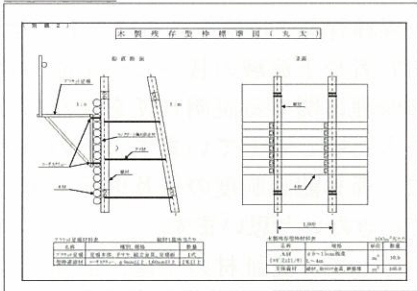
内連絡会議」においても、他部局への積極的な活用呼びかけがなされたところです。

公共土木木材利用事例集 (他局でも活用可能と思われる 施工事例をピックアップ)

森林土木工事は森林の維持・造成・管理に関わる事業であることから、他の部局に比べ木材利用の取組事例の蓄積が進んでいます。そこで本年度、森林局が中心となって本県において施工された「公共土木工事における木材・木製品利用事例集」を作成することとなりましたので、皆様にご紹介させていただきます。

これは、静岡県治山・林道工事で施工した木材利用事例（丸太残存型枠、丸太伏工、木製水路工など）について他部局でも活用が図れると思われるものを中心に、設計積算において木材を利用しやすくするため写真と工種説明のほか、歩掛、定規図を添付しています。

定規図・材料表等



▲定規図

工種名 盛土法伏丸太構工(橋高70cm)

(10.0m当たり)

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
普通作業員		人	0.58	組立て、繫結、仕上げ
普通作業員		人	0.78	杭打ち 0.06人/本
杭木	長1.5m、末口径8~10cm	本	13.0	杭間隔0.75m
背丸太	長4.0m未満、末口径7~9cm	本	42.0	
鉄線	なまし線 #10	kg	4.2	

(備考)

▲歩掛

最後に

木材は1㎡当り212kgのCO₂を固定することができ、木材を利用することで地球温暖化防止に貢献することになります。

そのためにも、県が率先して木材を使用する取組みを今後も継続していきたいと考えています。

県庁だより②

カシノナガキクイムシ被害地視察 (愛知県) に行ってきました

県建設部森林局 森林整備室 造林スタッフ

愛知県でのカシノナガキクイムシ被害状況の視察結果を森林整備室造林スタッフより報告していただきます。

1 はじめに

森と人2008年3月15日号にてカシノナガキクイムシ被害についてご紹介しました。

この被害で枯れてしまう樹木はブナ科の木です。

広範囲に発生した場合に効率的な防除方法は確立されていないので、現時点の最善の対処としては、早期に被害を発見し駆除することです。

被害の主な2大チェックポイントは、①穴の大きさは2mmくらい、②根元には木くずがたまっていることです。

……とはいっても、木をよく観察すると、意外にいろいろな穴があります。実際に被害を見たことがないと、なかなか判断できません。

そこで今年6月、対策を担う市町及び県職員で被害が発生している愛知県へ、本物の被害を視察してまいりました。

2 視察の概要

①愛知県瀬戸市 あいち海上の森

海上の森は、多様な植生で構成され、休日には自然を満喫しようとたくさんの市民が訪れるそうです。直径30cmを超えるアベマキ、コナラなどが多数あります。管理者である愛知県は、散策路付近の被害木を駆除しています。

②名古屋市名東区 猪高緑地

猪高緑地は、住宅街に残る緑豊かな森林です。一角には幼稚園などの社会福祉施設があり、老若男

女から親しまれています。森林は市有林と私有林で、こちらも直径30cmを超えるコナラの大径木が沢山あります。名古屋市は愛知県と同様、散策路付近の枯死木を駆除しています。また、猪高緑地ではボランティアが被害木の調査と駆除を行っており、精力的に活動しています。

3 県からのお願い

県では、リーフレットを作成し公園や道路の管理者、しいたけ生産者、ホームセンターなどの原木販売者、森づくり団体等に配布しています。

情報も少しずつ寄せられてきていますが、現時点では被害は確認されていません。

カシノナガキクイムシの被害のようでしたら、お近くの農林事務所まで御連絡ください。

県HP

カシノナガキクイムシの

被害にご注意ください！

<http://draft/kensetsu/ke-730/kashinaga.html>



穴の大きさはつまようじの先が刺さるくらいの大きさです。

現地 レポート①

環境、社会、経済の調和を図る森林管理 — 川根本町「F-net大井川」がFSC森林認証を取得 —

川根本町 産業課 鈴木 浩之

平成20年3月12日、「水と森の番人が創る癒しの里」を目指す川根本町のグループ「F-net大井川」が静岡県内で初のFSC森林認証を取得しました。取得までの経緯と今後の取組について報告していただきます。

FSC森林認証制度とは

森林認証制度とは「適正な森林管理」を行っていることを第三者機関が審査認証する制度で、FSC（森林管理協議会）は国際機関です。森林管理において、環境に配慮し、地域社会の利益にかなない、経済的にも継続可能な生産が行われている木材を認証し、その製品が認証を受けた流通加工業者によって消費者まで届くというしくみです。認証製品にはFSCの認証ロゴマークが付きます。今回当町が取得したのはFM-COC認証で、森林管理の認証です。流通加工の場合はCOC認証を取得します。なお、森林認証には静岡市林研森林認証部会や富士宮市白糸財産区などが取得したSGEC（『緑の循環』認証会議）などもあります。

国内の取得動向

2008年5月8日現在、国内のFSCのFM認証は24箇所279,076ha、COC認証は697事業者が取得しています。



▲認証製品の例（FSCロゴマークがついてます）・・・他の認証取得者の製品です。

認証の取得

当町は、町の面積497km²、そのうち94%を森林が占めています。豊かな森林資源を後世に残していくために、今の厳しい林業経営を打開するために、そして消費者の皆様へ森林を分かりやすく理解していただくために、森林管理グループを結成して消費者に信頼される森林経営の確立を目指したものです。グループ取得は森林認証を取得し、維持していくための経費を分担する目的もありました。

認証森林面積は1465.96haで、町有林と9人の林家のグループ取得です。6月に事前審査を受け、9月に本審査を受けました。この背景には平成13年度に模擬審査会を開催した経験があります。

審査を受けて・・・

今回、受検した森林のこれまでの施業方法はほぼFSCの基準に沿っていることが分かりました。第1に必要なだったのは、施業方法のマニュアル化、情報の公開、継続的なモニタリング、安全管理の再確認、生物多様性の確保、所有山林の台帳を含めて文書化することなどでした。

認証を取得することができましたが、審査結果として以下3つの条件（改善要求）が提示され、1年以内に対応しなくてはなりません。

①安全装備の徹底と使用状況の記録、②資源状況のデータ化、③販売に係る伝票類の作成の3点です。その他に11の推奨事項を指摘されました。

審査結果に基づき、グループで対応方法を検討するとともに、認証基準に沿った管理技術向上に努めていくこととしています。



▲F-net大井川のメンバー

今後の展開

現在、町内の森林の7%がFSC森林認証を取得しています。この拡大を進めて、「F-net大井川」の加入者を増やしていきます。グループのメンバーは、FSC認証基準にそった森林管理の技術をさらに向上させ、消費者や下流域の皆さんへ上流の森林管理に関する説明責任を果たしていきたいと考えています。そのために、森林認証制度の普及啓発に努めていきたいと思っています。

そして、認証材の生産、流通にも取り組み、COC認証を取得した加工流通事業者の皆様とともに、消費者の方々に信頼していただける木材や木製品を提供していきたいと考えています。



▲認証を受けた森林

現地レポート②

あれも これも 芝川町！

芝川町 産業課 主事 須藤 宜邦

今回の現地レポートでは、芝川町役場産業課須藤宜邦さんより、変化している森林とそこに住む野生動物との関わり方について焦点を当てた話題を提供していただきます。

環境変化での出来事

芝川町では、近年、民家付近でクマが目撃されることが多くなり、神社が壊されたり、農作物が荒されるなどの被害が出ておりました。そんな中、見回り中の猟友会の方が熊に襲われそうになり、やむを得ず、熊を射殺するに至りました。その事が、TV等で報道されると、兵庫県に本部を置く日本熊守協会の会員から「野生動物を殺さないで」との一声。「いやいや、農作物被害があったり、まして住民の方が襲われそうになったので、やむを得ないと思います。」の、私の一言をきっかけに、話が白熱し、森山会長をはじめとした協会員が芝川町に訪れたことから、同協会の、奥山の生態系の保全・復元を目指す活動を知る事となりました。



▲熊の手

芝川町でも、ここ数年、クマやイノシシをはじめとした、野生動物が里山に下りてきて、目撃されるに留まらず、丹精込めて作った農作物等に被害があり、住民をはじめ関係者の皆様は、頭を抱え被害対策に取り組んでいるところ です。

自分達に出来ること

普段何気なく目にしている森は、昔、数多くの野生動物が暮らし、自然の巨木が広がっていました。そしてこの森は、野生動物等の生命を育み、全てと言ってもおかしくないほどの産業と水源を支えてきたのではないのでしょうか。その森は、針葉樹であるスギ・ヒノキへと代わり、本来の森の意味を無くしてしまったように思えます。野生動物にとっても、人間にとっても環境を変えなければならない時が来ているのではないのでしょうか。

人工林により森の生態系が破壊され、さまざまな野生動物の生活圏が少しずつ里山に下りてきて、食べるものといえば農作物となります。そもそも、野生動物は森の中に生るものを食べています。それは木に生っている実等です。その木が激減しているから野生動物が生きてゆくには、農作物を食べるしかありません。その農作物を荒らす野生動物を駆除することにより、その野生動物が担っている、自然界の生態系を壊すことにもなります。このままでは、悪循環の繰り返しとなり、結果、何も残らないのではないのでしょうか。

そこで何をしなければならないか。小手先の変化ではなく、森を生き返らせなければなりません。具体的には広葉樹を植えることです。言うことは簡単ですが、莫大なスケールの話になります。しかし、今始めなければなりません。実際取り組みを始めた場所もあると聞いています。もちろん個人の方々が行うには限度があるため、数多くの企業が援助してくれることをチラホラ耳にすることが

あります。また、森の力再生事業の事業効果を期待したいと思っています。

そんな芝川町ですが…。

そんなことを考えている職員のいる芝川町ですが、自然の恵みをふんだんに利用し、多くの観光客を呼び込む観光協会の会員がいます。年始めには、芝川町民を上回る人出で賑わう、地元酒蔵の「蔵開き」が行われます。隣の富士宮市からの送迎シャトルバスがひっきりなしに運行され、ここぞとばかり飲んだ暮れて一日を楽しむことができます（笑）。ただし、年に一度だけですが……。もちろん一年中販売していますのでいつでも味わうことは可能です。なんと、この酒蔵は、食に関する世界一を決める「モンドセレクション」で金賞を受賞しています！住民にとってはかなりの自慢です。



▲蔵開きでの一コマ

また、一年を通じて自然学習体験の出来る、学校と言いましょか塾と言いましょか、とにかく今の子供たちに欠けている、自然を舞台とした遊び方を教えてくれる人達がいます。そして、日本三大急流の富士川を一気に下るラフティングや、道具を利用せずに岩場を滑り下りるキャニオニング体験をさせてくれる人達。綺麗な水を利用して作る、お蕎麦の手打ち体験をさせてくれる人達など、少人数の団体から富士山静岡空港の飛行機をチャーターするくらいの人数まで、様々な形態の団体を受け入れています。

また、町内には泉質の良いことで有名な新稲子川温泉があり、遠方からも家族連れや癒しを求めた方々が多く訪れます。また、カメラマンの間ではちょっとした評判の富士山絶景ポイントも町内のあらゆる場所に存在します。

人の温もりを感じ、奥の深い芝川町へ、自然を求め、野生動物を求め、癒しを求め、是非お越し下さい。

治山・林道技術研修会の開催

山林協会と県の共催による、市町職員等の治山及び林道の技術研修会を、浜松市浜北区の県立森林公園「森の家」において開催しました。

治山・林道業務にはじめて携わる、経験年数が2年以下の20～40歳代までの市、町、県職員が参加し、現地の測量、設計図の作成、成果品の整理検討まで基礎的な技術習得に熱心に取り組みました。

研修の概要

【日程、参加者の状況】

治山 5月19日～22日
 研修生：10名 3班編成
 林道 6月9日～12日
 研修生：10名 2班編成

【研修参加市町等】

治山 河津町、静岡市、藤枝市、森町、浜松市、県
 林道 函南町、静岡市、焼津市、藤枝市、島田市、浜松市、県

【研修内容】

講義：事業の制度、概要について
 計画、測量全般と留意事項など
 現地測量：測量器具の取扱、踏査、計画、各種測量実習
 設計製図：平面図、縦断図、横断図、構造図、拡幅図など
 数量計算：堤体体積、床掘・切盛土量、盛土流用など
 積算：治山は本工事費まで算出、林道は進度により適宜実施

【講師、指導員】

講師：治山・林道の経験豊富な県職員
 OB及び県担当室職員
 指導員：治山・林道技術、指導力の確かな農林事務所中堅職員

【成果発表】

各班それぞれ、設計書、作成図面により設計条件と構造物設置の考え方、注力・留意した点などを説明



【講評】

治山：構造物計画位置とその目的の明確化、施工方法・施工後対策の十分な検討。また、工事完了後の維持管理を大事にすること、仕事はチームワークであり意思疎通情報交換を十分に、現場作業員の声をよく聞くことを訓示

林道：林道を作るのが目的ではなく、共用後の森林施業が目的、低い法の設定や待避所、車回し、作業スペースを多く設けるなど使いやすい道作りに努めること、林道必携技術編の基本部分をよく理解すること、研修を通じて出会った講師、指導員、仲間を大切にとの訓示

【アンケートの結果】 回収数 18

研修全体を通しての感想

- ①期待していた以上 6
- ②期待していたとおり 10
- ③期待はずれ 0

研修内容について

- ①必要 76%
- ②どちらかといえば必要 22
- ③必要ない 1

	講義	測量	設計	成果
①	11	16	16	12
②	7	7	2	6
③	0	1	0	0

研修を終えて

この研修は協会設立時から実施している歴史のあるものですが、平成15年度までは各農林事務所持ち回りで、治山・林道それぞれに県下各地で開催されてきました。平成16年度からは、治山・林道共に浜北森林公園「森の家」において、県との共催により開催されることとなり本年度は5回目となります。豊かな自然に恵まれ落ち着いた環境の研修室と宿泊施設、比較的穏やかな地形で初級者の測量実習には最適な現場を近くに併せ持つ素晴らしい研修場ではありますが、やや現実味に欠けるのではとの声も聞かれます。治山では各班の設計を比較検討することが必要ではとの指摘もあり、今後の研修への要望を含め、より効率的、効果的なものとするため、県と協会での検討を深めたいと考えています。

この研修の成果が生かされ、研修生の皆さんが各職場において大いに活躍されることを期待し、地域の皆様に喜ばれる治山・林道事業が推進されることを祈念しております。

(社)静岡県山林協会

事務局だより

★6月26日～27日に「森林・林業・山村活性化研修会が、全国市町村林野振興対策協議会等の主催により、東京で開催されました。

本県からは岡部町長はじめ、3名が出席いたしました。多彩な5名の講師による、タイムリーな話題の内

容でした。毎年開催されていますので、次回には是非多くの会員のご参加をお願いします。

★7月も半ばを過ぎ、梅雨の終わりとなりましたが、まだまだ、集中豪雨等による山崩れなど、山地災害の発生が危ぶまれます。御注意ください。(本間)



この用紙は、間伐材を原料としております。